

透析ケア

選 択

開講年次：3年次後期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：人体組織における腎臓の機能を復習し、慢性腎臓病（CKD）の病態、及び生活習慣病との関連性を理解する。慢性疾患に共通する自己管理の知識・技術に基づいて、透析療法とそれに伴う合併症の自己管理を支援する患者教育方法を理解する。慢性腎臓病をもつ人ならびに慢性透析者がその人らしい生活を送られるよう支援するための心理社会的アセスメントと援助方法について理解する。

■**到達目標**：①腎機能、慢性腎臓病の病態、透析療法の原理、働きについて理解する。
②慢性腎臓病の自己管理を支援する患者教育の知識と技術を学ぶ。
③透析療法と自己管理が透析者とその家族の生活・人生に与える影響について理解する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎藤井 瑞恵・木村 剛

■**授業計画・内容**：

- 第1回 慢性腎不全（CRF）から慢性腎臓病（CKD）へ、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）
- 第2回 透析療法と合併症、患者教育の原理原則、個別性を尊重した段階的教育
- 第3回 透析導入期・維持期の自己管理支援／食事指導、シャント管理、高齢者への指導、感染対策、災害時の対応他
- 第4回 長期透析合併症のケア／合併症の予防、下肢病変予防のフットケア、社会資源の活用他
- 第5回 腹膜透析者のケア／透析液バッグ交換、カテーテル出口部ケア、療法選択の支援
- 第6回 腎代替療法と共に生きる（北海道腎臓病患者連絡協議会の活動、体験談）
- 第7回 慢性身体疾患を有する成人における運動療法の概要と教育のポイント
- 第8回 透析患者への心理社会的援助：まとめ

■**教科書**：『臨床病態学』第2巻（ヌーヴェルヒロカワ）（2年次開講科目「疾病治療学概論」等で使用したもの）

■**参考文献**：『CKD診療ガイド2012』（東京医学社）

『腎不全 治療選択とその実際』（日本腎臓学会・日本透析医学会・日本移植学会・日本臨床腎移植学会）

『透析療法の理解とケア』（学研）

『第8版 腎臓病食品交換表 治療食の基準』（医歯薬出版株式会社）

『NEW慢性腎不全患者のセルフケアガイド—保存期・透析期・移植期』（学習研究社）

『写真でわかる透析看護—透析患者のQOL向上を目指すケア』（インターメディカ）

『やさしいサイコネフロジー入門—透析・腎移植患者の精神・心理的問題とその対応のコツ』（東京医学社）

『慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル』（医学書院）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	授業内容の理解	80
小レポート	○	○	◎	ポイントの理解	20
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：形態機能学I・II、病理病態学、疾病治療学概論、疾病治療学A・B、臨床栄養学、看護過程論、症状マネージメント論、成人看護学概論、成人看護技術論、がん看護学、リハビリテーション看護学、重症集中ケア、救急看護学、パリアティブケア

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：医療技術の進歩により透析療法は安全で有効な治療法として普及し、慢性透析者の生存率も飛躍的に向上した。その一方で、慢性透析者にとって人工腎臓による非生理的な排泄やテクノロジーに依存した生活は、身体のみならず心理社会的な苦痛を伴う。看護師は、こうした課題に直面する慢性透析者とその家族がその人らしい満足のある生活・人生を送られるよう支援することが期待されている。さらには、透析人口の増大と高齢化に伴い、透析看護に対する質の向上、専門性も求められている。本講では、第2回までの講義で慢性腎臓病の病態と透析療法の知識を習得した上で、第3回目からは、透析療法を受ける透析者とその家族に対するケアの実際について学ぶ。また、現場看護師から透析者とその家族への思い、やりがいについても伝えていきたい。第5回目は、在宅医療の一形態である腹膜透析療法の支援方法と、血液／腹膜透析者とその家族の心理社会的課題に焦点をあてた看護援助方法について学ぶ。